

[総合的な学習の時間]

思考力を育む総合的な学習の時間の在り方

— 「表現活動」を軸に活動した子どもの変容を通して—

風間 寛之*

1 問題の所在

平成25年、国立教育政策研究所は、これからの時代を生きる子どもたちに育みたい力として「21世紀型能力」を提案した。その中核には「思考力」が位置付けられている。そして、「思考力」を支える「基礎力」と、「思考力」の使い方を方向付ける「実践力」の3つを、21世紀型能力の構成要素とした。

このような流れの中で、子どもの思考力を育成するための総合的な学習の時間の実践研究が進められてきている。宮地 (2013) は、文献研究より、総合的な学習の時間における思考力を、「収集した情報を比較・分類・関係付けして整理したり、因果関係を導き出したりして分析する力」と解釈した。これを育成するためには、思考ツールの活用が有効であると考え、単元を通して思考ツールを活用する能力を育み、これに伴って子どもたちの思考がどのように変容するのかについてまとめている。

また、長崎市立稲佐小学校 (2010) は、「地域」を学習の素材とし、「ミニさるく」という、様々な人たちに地域を案内し、魅力を伝える活動を行った。案内活動を進めるにつれて、表現意欲の高まりや、より分かりやすく表現するための追究が生まれたことが成果として挙げられている。

筆者もこれまでに、子どもの思考力を高めるための総合的な学習の時間の実践を進めてきた。地域の特色あるもの・こと・人とかかわることで、願いや思いをもち主体的に活動していた。そして願いや思いをためた子どもたちは、稲佐小の実践同様、「表現」したくなるが多かった。共に学んだ地域の方や他学年の子どもたち、さらに地域外の人たちに、学習したことを伝えたいという思いが強くなった。この時、子どもたちは「何を伝えたいのか」を明確にするために、これまでの学習を振り返り、情報を分類したり関係付けたりしていた。「どうすれば伝わるか」を考え、他者と伝え方を比べたり、相手の立場に立って考えたりしていた。筆者は、これらの姿こそが子どもたちが思考している姿であると考えた。

しかし、宮地や筆者のこれまでの実践は、1場面における子どもの思考について評価・分析したものに過ぎない。総合的な学習の時間の活動は年間を通してカリキュラム構成するものであり、1場面の子どもの姿を抽出しただけでは、思考力の育成について論議することができない。また、稲佐小の実践においても、表現力の高まりの中で、子どもたちがどのような思考を発揮しているのかまでについては分析されていない。以上のことから、年間を通してのカリキュラム編成と、子どもたちの思考力の変容について関連させて考察した研究は十分であるとは言えない。総合的な学習の時間において、子どもたちがどのように思考力を発揮しているのかを分析することで、思考力を育むために有効なカリキュラム構成を明らかにできると考える。

2 研究の目的

本研究では、筆者がこれまでに有効であったと考える「表現活動」を軸とした総合的な学習の時間の活動を通して、子どもたちがどのように思考力を発揮し、思考を変容させていったのかを分析することを通して、思考力を育むために効果的なカリキュラム構成について考察することを目的とする。

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

本研究は、3・4年複式学級 (3年男子2名、女子3名、4年男子4名、女子4名、計13名) の「ひまわりわかば

* 上越市立諏訪小学校

(2つの学年の愛称) たんけん隊～二貫寺の森を知り、遊び、伝え、学ぼう!～」の活動を考察したものである。学校の近くには、上越市自然環境保全地域に指定されている「二貫寺の森」がある。学校から徒歩で数分のところに位置しているため、子どもたちは幼少のころからたびたび足を運んで、森の自然に親しんでいる。本実践では、かかわる対象である森に対しての愛着を育むことを第一の目的とした。植物調べ、遊びの研究、昆虫調べ、道の探検などを通して、子どもたちが森を好きになるように活動を仕組んだ。そして次に、大好きになった森のことを様々な人に様々な場面で伝えようとする姿を目指した。本校は、児童数43名の小規模校である。保育園時代から、人間関係に大きな変化がないために、言葉を多く交わさなくても「〇〇さんは～だから…」と決め付けてしまったり、じっくりと会話をしてコミュニケーションをとることが少なかったりする。また、少人数であるために、他校と比較すると人とかかわる機会は少ない。このような子どもたちが、深く思考し、人間関係をつくる力を育むために「表現活動」を取り入れることは欠かせないと考えた。そこで、様々な立場の人たちに、どのようにして森の魅力を発信するのかを繰り返し考えられるように活動を構想した。

(2) 年間カリキュラム

◇活動計画(70時間)																
教育期	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期		Ⅴ期							
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
主な活動内容	森をたんけんしよう! 遊ぼう! (18) 二貫寺の森たんけん ・季節の植物調べ→季節の昆虫調べ ・遊びを存子→1年生に巻を案内しよう ・核でパチンコ作り! ぶんしやもんじゅの池探検				二貫寺の森「未知」を調べよう! ・1学期に解決できなかった「もっと知りたいこと」 ・季節の昆虫調べ(昆虫博士 宿取さん) ・季節の植物調べ→図鑑制作(上教大 小村さん)				森の魅力を発信しよう! (30) 二貫寺の森の魅力を伝えよう! (表現) ・「今」の二貫寺の森を地域の人に伝える。				その森をたんけんしよう! (4) 活動をふり返ろう! (10) 活動をふり返り、自分の学びをまとめる! ・表について思うこと…春の考えとの比較 ・春の自分と比べて、成長したところ ・(人とのかわりや、表現する力などについて)			
他教科との関連	理①夢の自決 理④あたたかく	理②夢の自決 理④あたたかく	理②夢の自決 理④あたたかく	理②夢の自決 理④あたたかく	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理	理④ますます 国②字検会 国④リーフレットで伝えよう 算④図解 算④資料の整理				
学校行事との関連	体育大会5/24		全校合宿7/2・3		文化祭10/25		感謝の会12/1		卒業・進級式3/24							

図1 年度当初の年間カリキュラム表

二貫寺の森での活動を中核に、他教科との関連を図りながら年間カリキュラムを構成する。「調査活動→表現活動→振り返り→課題設定→調査活動→…」の流れをスパイラル状に繰り返すことを基本にし、子どもたちの願いや思いに応じて、カリキュラムを修正する。

実際に、子どもたちの思いから、2学期の表現活動は文化祭において、地域の人を森に誘うような内容の発表となり、3学期には、地域の方や地域外の方を招いて、実際に森を歩きながら魅力を伝える「二貫寺の森ツアー」を企画することになった。

(3) 研究の方法

1年間の学習を通して、子どもたちがどんな場面で思考力を発揮し、思考を変容させていくかを見取るために、日々の活動の中で、子どもたちの思考と行動の関連について分析する必要がある。そこで本研究では、3人の子どもに焦点を当て、思考と行動について分析した。子どもたちには、1人1冊の活動記録ノートを与え、活動の前後などに気付いたことや考えたことを記録しておけるようにした。このノートの記述や、授業・活動の中での発言から、子どもたちの思考の変容を見取ることとした。

A児は、活動の内容や場所によって、意欲が大きく変化する子どもである。特に「いやだ」と1度思うと、そのことに前向きに取り組むことができずに、「面倒くさい」や「やりたくない」など、後向きの発言を繰り返すことが多い。

B児は、自分に自信がもてずに、創作活動や初めての活動に進んで挑戦しようとする意欲が乏しい。書いたり、話したりして、自分の気持ちを表すことが苦手な子どもである。

C児は、活動への意欲は高いものの、自分の興味や関心を満たすことで満足してしまい、他の人に伝えたり、分かってもらったりしようとする気持ちに乏しい子どもである。

これらの子どもについて、活動記録ノートや発言の内容、行動の変容などを記録・分析することで、どのように思考力を発揮し、思考を変容させていったのかを考察した。

また、宮地（2013）の実践研究と参考文献より、実践の中で子どもたちが発揮するであろう思考力を具体化し、分類した（表1：以下これを「思考スキル」とする）。子どもが日々書きためている活動記録ノートの内容や、授業・活動の中で発言したことを思考スキルに当てはめることで、どんな活動で、どのように思考力を発揮するのか、思考を変容させていくのかを分析する。

表1 思考スキルとその具体例

思考スキル	記述・発言例
比較する	春に調べた時と比べて、夏は緑が濃くなっていた。
関連付ける	春は動植物が増えると学習して、実際に森では…。
評価する	大きな声を出したから、お客さんが集まってくれた。
分類する	トンボの仲間は少ないけれど、チョウの仲間は多くいた。
推論する	たくさん宣伝したから、お客さんが来るだろう。
理由付ける	暑くなってきたから、植物や動物は…。

4 実践の結果

(1) 活動の様子

① 「人とかわかること」で意欲を高め、「相手の立場」を思考するようになっていったA児

7月の全校合宿の際に、全校児童を対象に、森の魅力を伝えるイベントを開催した。子どもたちが「二貫寺の森ネイチャーフィールドビンゴ」（以下NFビンゴ）と名付けた活動である。事前に、森のパンフレットを作成し配付したり、各教室で活動の楽しさを伝えるスピーチをしたりして、宣伝活動を行ってきた。A児は、パンフレット制作を行い、宣伝活動を進めてきた。

7月4日（1回目の表現活動・NFビンゴの後）

わたしがネイチャーフィールドビンゴをして学んだことは、今までと森の見た目とか見た感じなどがかわったことです。—ア
わたしはビンゴのじゅんびなどをする前、二貫寺の森のことをただ植物がたくさんあったり少し遊ぶ所がある森だと思っていました。だけど、ビンゴのじゅんびで森に行っているうちに、とてもすてきな森だ思うようになりました。—イ その理由は、植物がたくさんあって、自然でできた遊ぶものがあるからとてもすごいと思いました。—ウ

【記述から読み取れる思考スキル ア：比較する イ：比較する ウ：理由付ける・比較する】

これまで、森に対しての愛着を感じさせる記述や発言がなかったA児であったが、この表現活動の後には、アイのような、森に対しての肯定的な記述が見られた。活動前の自分の気持ちと、活動後の自分の気持ちを整理し、比較していることが分かる。また、イで「少し遊ぶ所がある」と記述していた点が、ウで、「自然でできた遊ぶもの」という記述に変化している。森の魅力を伝えるために、何度も足を運び、「遊ぶ所」の認識が変化し、そのよさを捉えられるようになった姿である。

1月には、これまでの表現活動の集大成として、地域外の方にも森の魅力を伝えるための「二貫寺の森ツアー」を企画した。A児は、宣伝活動の際にチラシプロジェクトのリーダーを任された。市内各地に掲示するチラシを作成するために、家庭学習でレイアウトを考えてくるなど、これまで以上に意欲が高まっていた。さらに、森ツアー当日のお客さんの動き方や、実際にどんなアトラクションを行うかなど、詳細な計画をノートに記述していた。

1月14日（3回目の表現活動・二貫寺の森ツアー1日目の後）

（前略）パンフレットをくばった人はいなかったと思います。なので少しごんねんです。—エ わたしは、お客さんは少なかったけど、クイズや遊びのアトラクションをやった時などに、笑っているすがたを見ることができてよかったです。—オ
 2回目はたくさんの人に笑って楽しんでもらいたいです。わたしはこのツアーで、人が笑って楽しんでもらえるようなツアーにしたいです。—カ

【記述から読み取れる思考スキル エ：評価する オ：評価する・理由付ける カ：推論する】

この表現活動では、これまでの宣伝活動を評価する思考スキルを発揮している。オでは、お客さんの姿をよく観察し、自分が求めている姿から成功の基準を作り、その基準を理由に挙げて評価を行っている。また、カの記述だけでは、推論する思考スキルを発揮しているとは言えないが、この後の2日目のツアーで、「笑って楽しめる」ような改善をしている。お客さん用に熱いお茶しか用意しておらず、ツアーをして体が暑くなったお客さんには冷たいお茶も必要だと考えた。この考えを実践し、2回目のツアー後の振り返りでは、これを評価している。思考したことから、よりよい方法を模索し、その結果を推論することで、お客さんにとって楽しいツアーを企画している姿である。

② 関連付ける思考スキルから、新たな活動を創り出したB児

7月の全校合宿でのNFビンゴの活動内容を考えるために、国立妙高青少年自然の家にて、講師を招いてネイチャーゲームの体験をした。

6月20日（1回目の表現活動・二貫寺の森NFビンゴの準備活動）

今日、PTC（親子活動）がありました。それで（妙高）自然の家でネイチャーゲームをしました。二貫寺の森でやれるな
と思ったのは、ビンゴゲームと、カモフラージュがいいと思いました。てい学年もわかりやすく楽しめるし、高学年も楽しめる
と思ったからです。ーア

【記述から読み取れる思考スキル ア：推論する・理由付ける】

7月4日（1回目の表現活動・NFビンゴの後）

きのう、合宿2日目の二貫寺の森ネイチャーフィールドビンゴをやりました。ぼくは、Dさんとエノキの大木のたんとうで
した。練習をした通りに全部のはんに説明ができたのでよかったです。みんなの班が楽しそうにしていたのでうれしかったです。
す。ーイ また、こういうのがあったら計画してがんばりたいです。ーウ

【記述から読み取れる思考スキル イ：理由付ける・評価する ウ：関連付ける】

アイでは、考えの根拠を明らかにして、推論したり評価したりしている。B兄は記述の量は少ないものの、理由を考
えながら思考を進めることが多い。

ウでは、この記述だけでは関連付ける思考スキルを発揮しているとは言え
ない。2回目の表現活動後に、学級で振り返りを行った。図2のように、
ファシリテーショングラフィックの技法を用いて、子どもたちの考えを構造
化し、表現活動の成果と課題を明らかにした。表現活動の目標であった「森
に来る人を増やしたい」に対して、「本当に来る人が増えるのか？」という
意見が挙げられた。話し合いの中で、「自然に興味がない人は、（あ～、そう
か）で終わってしまう」「よく分かったけど、行きたくはないなあという人
が多いと思う」といった考えが話されると、「結局、自分たちの発表って意
味があったの？」「今後の活動をどうするのか」について考えるようになった。
そこで、B兄は「実際に森に人を呼んでツアーを企画すればいい」という意見を挙げる。これは、「森に来て、魅
力を感じてほしい」、ウの「また森に人を呼びたい」という願いを関連付けた思考を発揮した姿である。

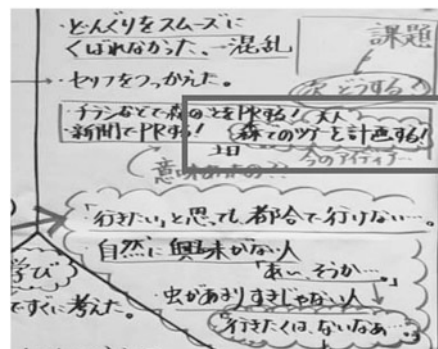


図2 表現活動後の振り返りの板書

③ 対象を愛し、対象への思いを語るようになったC兄

C兄は、昆虫観察などが好きで、年度当初から二貫寺の森での活動に意欲的に取り組んでいた。

4月23日（理科学習での「二貫寺の森の春探し」の活動後）

今日、5・6時間目に二貫寺の森に春をさがしに行きました。前行った時よりもみどりがふえていました。ーア 空気がお
いしかったです。今日は、知らない道を通ってみたら、なんじゃもんじゃの池（森の中にある人工池）につながっていました。

【記述から読み取れる思考スキル ア：比較する】

6月23日（7月のNFビンゴの下見の活動後）

今日、二貫寺の森に行って、下見をしてきました。はしをわたったら、いきなり春には見かけなかった植物がたくさんあっ
てびっくりしました。ーイ 昔よく見ていたオオバコが変色していてふしぎに思いました。

【記述から読み取れる思考スキル イ：比較する】

7月4日（1回目の表現活動・NFビンゴの後）

ぼくは、森で、森の大切さを学びました。いま森が少なくなっていて、二貫寺の森は四季おりおりの植物にあえるから、自
然を大切にすることを学びました。ーウ

【記述から読み取れる思考スキル ウ：理由付ける】

9月11日（2回目の表現活動・文化祭での森ツアーの準備活動）

森に入る前はオニヤンマ・バッタがたくさんいてびっくりしました。森の中に入ると落ち葉がたくさんあって、メスグロ
ヒョウモンがたくさんいました。ーエ ガもたくさんいました。

【記述から読み取れる思考スキル エ：分類する】

アイのように、C児は森に出かけるたびに、前回来た時と比較をし、新たな発見を喜んでいました。またエでは、昆虫の生息域の違いについて、その昆虫の姿を根拠に分類していた。

ウでは、「植物にあえる」という表現を用いた。森の植物をあたかも自分の友達のように表現していることからC児の森への愛着が読み取れる。また、図工の授業では「未来の二貫寺の森」をテーマに創作活動を行った。その際、「10年後の森はどうなっていてほしいか?」という問いに対して、「遊ぶところが増えてほしい」「たくさんの動物にあえるようになってほしい」と思い思いの想像をふくらませる子どもたちの中であって、C児は「10年後も今のままの森がそのままあってほしい」と発言した。このことから、今現在自分が深くかかわっている森が、ずっとそのままいてほしいという深い愛着を感じる。

右の会話は、1月の「二貫寺の森ツアー」1日目の、お客さんとC児の会話である。ツアーガイドをする子どもたちが、クイズを考えたり解説を考えたりして伝える中、C児は移動中のお客さんとの何気ない会話の中でこのようなやりとりをしていた。

さらに、1日目の振り返りでこのC児の姿を学級で紹介すると、「ほくもやってたよ」や「じゃあ2日目はCさんみたいにやろう」という発言があった。下に示すのは、2日目のツアーガイドを終えた後のB児、D児の振り返りである。

1月18日（3回目の表現活動・二貫寺の森ツアー2日目の振り返り）

B児：とても不安だったけど、説明がちゃんとできて、楽しくしていたのでよかったです。Cさんが引っ張ってくれたからできました。

D児：Cさんのように説明を入れながら回ることができたのでよかったです。

客：クワの実って甘酸っぱいの？

C：甘いですよ。かたい状態のやつをとって食べるととても酸っぱいんですよ。

客：酸っぱいんだ。

C：で、秋になるとアケビがとれて、たねがいっぱい入っているんです。

客：ふーん。それでアケビとかって、毎年出るところって決まっているの？

C：はい。

客：アケビの木っていうのがあるんだね。

C：はい。あと、クワの実も。クワの木があります。



図3 二貫寺の森ツアーガイドの様子

記述から、C児の行動が、他の子どもの思考に影響を与え、行動を変容させていることが読み取れる。

(2) 子どもたちが発揮した思考スキル

子どもたちが書きためてきた活動記録ノートの記述の内容を、表1「思考スキルとその具体例」に当てはめて、分類・集計を行った(表2)。1年間を通して、「評価する」思考スキルを発揮している子どもが多い。また、7月のNFビンゴに向けて、森についての理解を深めるために「比較する」思考スキルを発揮している子どもが多いが、1月の二貫寺の森ツアーに向けては「推論する」や「理由付ける」思考スキルを発揮している子どもが増えている。

表2 振り返りノートに記述のあった思考スキルの数(個)

思考スキル	活動	NFビンゴの前	NFビンゴの後	文化祭森ツアーの前	文化祭森ツアーの後	二貫寺の森ツアーの前	二貫寺の森ツアー1日目の後	二貫寺の森ツアー2日目の後
比較する		31	11	10	0	10	0	8
関連付ける		12	2	3	0	0	0	1
評価する		11	10	13	8	22	16	17
分類する		2	0	2	0	0	0	0
推論する		3	0	4	1	10	1	4
理由付ける		10	9	5	4	8	8	16

5 考察

A児・B児・C児の事例と、すべての子どもたちの思考スキルの変容から、子どもたちが思考力を発揮したり、思考を変容させたりした活動について以下(1)(2)(3)のように考察することができる。

(1) 対象と多くかわり「比較する」ことを通して、対象への愛着を深めていく

表2の子どもたちが発揮した思考スキルの分類により、対象への理解を深めようとしている年度当初は「比較する」思考スキルを多く発揮していることが分かった。3学年理科学習で重点とされている理科的思考力は「比較する」力で

ある。改めて中学年の子どものにとって、対象とのかかわりを深めるために「比較する」場面が重要であることが分かる。

また、C児も他の子どもと同様に、森での発見を積み重ねていた時期には「比較する」思考スキルを多く発揮していた。前回来た時の森の様子や、自分が知っている植物についてなど、比較することを通して、森への理解を深め、自分なりの「二貫寺の森」観を創り上げている。この事例から、比較しながら対象への愛着を深めていくと、対象についての願いを明確にしたり、他者に対して対象の魅力を語ったりするようになることがわかる。さらに、二貫寺の森ツアー2日目の事例により、対象について語る子どもの姿を学級で共有することは、他の子どもたちが自分の学びについて振り返り、これを発信しようとする姿につながったと言える。

つまり、思考力を育成するカリキュラムには、活動初期の段階で「対象と多くかかわること」と「対象について比較する機会を設けること」が必要であることが分かった。本研究では、二貫寺の森を学習対象としたが、近隣の他の森での活動を設定し、別の森の様子と比べることも、対象への愛着を深めるために有効であったのではないかと考える。

(2) 表現活動を繰り返すことで、他者の立場からも活動を評価するようになり、自分で新たな活動を創り出していく
表2の子どもたちが発揮した思考スキルの分類により、「評価する」思考スキルについては1年間を通して発揮していることが分かった。主に活動後、「何が分かったのか」「何を学んだのか」についての記述が多かった。A児の事例から、7月の表現活動では、「自分」の考え方がどのように変化したのかについて評価し、記述している。そして1月の表現活動では、相手にどのように感じてほしいかを明確にした上で、「相手」がどのように感じたのかを、会話や表情をよく観察することで分析し、評価することができるようになった。このように、活動を評価するための根拠が自分から相手に変わっていく傾向は、A児だけに限らず全体にも見られた。また、B児は7月に「またこんな活動をしたい」という願いをもった。10月の発信後には、「森はいい所だけど、行きたくはない」という相手の気持ちを想像し、「それでも森に来てほしい!」という自分の願いを明確にした。そして、この2つの願いを関連付けることによって、森ツアーという新たな活動を創り上げようとした。ここでも、相手の立場になって考えるという視点が重要であった。

これらの事例により、形式や相手を変えながら表現活動を繰り返すことで、子どもたちが相手への意識をもつようになってきたことが分かる。相手を意識することで、子どもは「どうやって伝えたいか」を考えるようになった。そして、よりよい伝え方を考え、新たな活動を創り上げていった。

(3) 相手意識の高まりが、より高度な思考スキルの発揮を促す

(1)と「表2」より、年度初期の子どもたちは「比較」する経験を多く積み重ねることで、対象への愛着を深めると言える。(2)と「表2」より、中後期には発信する活動を様々な形態で繰り返すことで子どもたちは、「評価」したり「推論」したりするスキルを多く発揮するようになった。A児の学びにおいても、7月には「比較」が多いが、1月には「評価」や「推論」などのスキルを多く発揮している。その背景には、相手に対しての意識の高まりが大きくかわっていることが考えられる。泰山(2011)は、それぞれの思考スキルは結び付きながら、別の思考スキルを発揮するとし、その系統を示している。「評価」したり「推論」したりするスキルは、複数のスキルが結び付いて発揮される、より高度な思考スキルとされている。

今後は、表現活動を軸にしたカリキュラム構成について、泰山が示した思考スキルの系統とも照らし合わせながら、子どもたちの思考がどのように結び付きながら、思考力を育み、より高度な思考スキルを発揮するようになるのかをさらに研究する必要がある。

6 参考文献

- 勝野頼彦編(2013). 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則, 国立教育政策研究所
宮地隆治(2013). 思考力を育成する総合的な学習の時間の在り方ー「整理・分析」の学習活動における思考ツールの活用方法の工夫を通してー, 広島県立教育センター
泰山裕(2011). 思考スキルに焦点化した授業設計のためのパンフレット～思考力育成を目指す授業のために～, パナソニック教育財団
山中伸一編(2011). 今, 求められる力を高める総合的な学習の時間の展開, (pp.143-148), 教育出版